

# 「教育情報システムデザイン研究会」報告

## Activity Report : Education Information System Design Study Group

千葉佑介<sup>†</sup> 貝原有香<sup>†</sup> 佐藤祥史<sup>†</sup> 石井嘉明<sup>†</sup>  
Yusuke Chiba<sup>†</sup> Yuka Kaihara<sup>†</sup> Yoshifumi Sato<sup>†</sup> Yoshiaki Ishii<sup>†</sup>

<sup>†</sup> 情報システム学会 教育情報システムデザイン研究会

<sup>†</sup> Education Information System Design Study Group, Information Systems Society of Japan.

### 要旨

「教育情報システムデザイン研究会」は、現存する教育支援システムの更なる活用に向けて調査・研究を行うことを目的として設置された研究会であり、今年度で3年目となる。本研究会では、学習成果物の収集や振り返り・評価・分析などに活用されるeポートフォリオシステムについて、活用事例の収集、活用実践者による講演会実施、調査結果を取りまとめた電子書籍出版などの活動を推進し、eポートフォリオシステム利活用のための働きかけを行ってきた。本稿では、本研究会の設置背景と情報システム学会第10回全国大会から現在までの活動内容、成果を紹介する。

### 1. 背景

近年、ICTの普及と教育の情報化、そして学びの変化によって学習管理システムやeポートフォリオシステムなどといった教育支援システムは教育機関においてより一層重要な存在となりつつある。本研究会はそのような時代の流れを踏まえ、現存する教育支援システムの更なる活用に向けて調査・研究を行うことを目的に2013年に設置された。

本研究会では、教育支援システムの中でも特にeラーニングインフラとして広く活用されている学習管理システムと、学習成果を蓄積しその評価・分析などに活用されるeポートフォリオに焦点を当て、その歴史や機能、用途の調査や活用事例研究を行い、教授者に対して活用を推進する活動を進めてきた。

### 2. 本研究会の活動

本研究会は1~2月に1回ほどのペースで開催しており、活動を開始した2013年4月からこれまでに17回に渡り活動を続けてきた。ここでは、参加者から教育支援システムのトレンド動向や国内の研究開発動向などが紹介されている。また、年度ごとに調査研究テーマを設定し、参加者によるグループワークでの調査・研究・書籍執筆や講演会開催などの活動を進めている。この成果は、毎年本学会の全国大会にて発表するスケジュールとしており、今回が3回目である。

研究会設置1年目の調査研究テーマは「学習管理システムの調査研究および機能と教育目標に関する体系的整理」、2年目は「eポートフォリオシステムの機能と潮流、活用事例に関する調査研究」、最終年度である3年目の本年は「eポートフォリオシステムに関する電子書籍出版、講演会による情報展開」である。本稿では、3年目の活動内容と成果を中心に紹介する。

### 3. eポートフォリオ活用に関する電子書籍執筆

近年、教育の質保証が求められており、何ができるようになったかのエビデンスを示した上で評価を受けることが求められるようになりつつある。そこで注目されているのが学習成果物をそのプロセスや気付いた点、学習材などの関連情報も合わせて記録することができ、評価・分析やコミュニケーションにも活用できるeポートフォリオシステムである。eポートフォリオシステムは近年、高等教育機関を中心に導入が進んでいると言われており[1]、研究開発も盛んに行われ、日本教育工学会や教育システム情報学会といった学会などにおいてもこれらの事例が多く発表されている。

しかしながら一方で、国内の高等教育機関においてeポートフォリオシステムの活用事例はいまだ少ない状況が続いている[2]。また、システムを教育に取り込み活用していく段階で「使い方や評価の仕方が分からない」「eポートフォリオシステムの新規導入・活用における支援者がいないため、作業に行き

詰まる」といった課題を抱えているとの声も多く[3]，効果的なシステムの活用にまで至らない例も少なくない。このようなハードルの高さが，e ポートフォリオシステムが導入されない，もしくは導入されても活用されていない状況を生み出してしまっている。

そこで本研究会では，教授者が目的に応じて e ポートフォリオシステムを選定しやすいよう，或いは導入済みの e ポートフォリオシステムで何ができるのかを把握しやすいよう，複数の e ポートフォリオシステムを比較し，機能洗い出し・整理を行う調査研究を進めていった。また，この調査研究と平行して，e ポートフォリオシステムにおける歴史や背景，そしてそこから見えてくる e ポートフォリオシステムの潮流などについても調査を行った[4]。

今期はそれらに加え，3 名の e ポートフォリオシステム導入・運用経験者にインタビューを行い，事例として整理した。これらは必ずしも成功事例として実践者を賛美する内容にはなっておらず，導入から運用開始までの苦労点や障壁，運用に際しての問題点，今後の課題など，他の実践者・実践予定者の参考になるような内容となるよう工夫した。

最終的にこれらの調査・研究結果を整理・体系化し，「e ポートフォリオの一步を踏み出そう！～活用される e ポートフォリオシステムへの手がかり～」と題した電子書籍にまとめ，2015 年 10 月に Amazon Kindle 上で出版した。本冊子は e ポートフォリオ活用経験が薄いシステム管理者や e ポートフォリオ活用を推進していく立場の教授者に向けた内容となっており，教育システムにご関心がお有りの方は是非ご一読願いたい。

#### 4. e ポートフォリオシステム活用事例の講演会

電子書籍出版を記念すると共に，書籍の中では語りつくせなかった実践者の生の声や思いをお聞かせ頂く目的で，電子書籍にもインタビュー結果掲載を承諾頂いた e ポートフォリオ導入・運用経験者によるご講演会を企画している。

第 1 回は 2015/10/7 (水) に開催し，日本 e-learning 大賞総務大臣賞受賞者である横浜市消防局の藤田 豊氏に e ポートフォリオ導入の苦労話や，既に導入・運用を開始していた学習管理システムとの連携，消防局というある種特異な現場での活用拡大の為の創意工夫などについてご講演頂いた。第 2 回としては高等教育機関での e ポートフォリオ導入・運用経験者による講演を予定しており，詳細決定次第，日程・演者などについて本学会を通じてご案内する。ご都合お付きの方は是非ご聴講頂ければ幸いである。

#### 5. まとめ

近年の教育支援システムは，高機能，多機能に進化を続けているが，これらを十分に活用した教育を構築するには，教育支援システムの機能に対する十分な理解と教育設計技法であるインストラクショナルデザインの知見が求められる。本研究会では，教育支援システムの中でも特に，学習成果を蓄積し，その評価・分析などに活用される e ポートフォリオに焦点を当て，書籍執筆・有識者講演などの形で調査結果の発表や啓蒙に勤めてきた。本研究会は今年度で終息予定であるが，引き続き教育支援システムの活用に向けて調査・情報発信を行う予定である。

#### 参考文献

- [1] 石井嘉明，教育情報システムデザイン研究会における教育支援システム活用推進への取り組み，情報システム学会誌，10(1)，pp.34-37，2014
- [2] 平成 22 年度 ICT の活用による生涯教育支援事業，「一人ひとりの e ポートフォリオが社会に活かされる学習基盤の構築に関する調査研究」調査研究報告書，富山インターネット市民塾推進協議会，地域学習パスポート研究協議会，2011.
- [3] 大学力を高める e ポートフォリオ エビデンスに基づく教育の質保障をめざして，東京電機大学出版局(2012)
- [4] 貝原有香，佐藤祥史，飯田哲也，千葉佑介，石井嘉明，e ポートフォリオシステムの機能から見える近年の e ポートフォリオの潮流，日本教育工学会第 30 回全国大会発表論文集，pp.639-640，2014.